

Verify RDR Virtual Disk の実行による CPU 高負荷状態について

問題の概要:

ftSSS リリース 3.0 からディスクチェック機能として Verify RDR Virtual Disk が付加されました。Verify RDR Virtual Disk が実行されている間、CPU 高負荷状態(約 50%前後)となる場合があります。これが 12 時間おき(デフォルト設定)に実行されることとなります。

内容:

Verify RDR Virtual Disk は、両 RDR ディスクにおけるセクタ単位でのディスクチェックを行いません。バッドブロックが検出された場合には、リマップされます。セクタ情報はメモリ上にコピーされ、両ディスクにて比較が行なわれます。これにより、Verify RDR Virtual Disk の実行により CPU 高負荷状態が生じます。

Verify RDR Virtual Disk は、ディスクチェックを行なうことでバッドブロックやディスク不整合等の検出を行なうことができますが、CPU 使用率を高騰させることとなります。また、デフォルトで Verify RDR Virtual Disk は 12 時間おきに自動実行されるため 12 時間おきに CPU 使用率が高騰します。

影響のあるシステム:

ftSSS リリース 3.0 以降で、且つ、RDR ディスク構成をご使用のシステム

回避策:

Verify RDR Virtual Disk 機能を停止していただき、実行可能時に手動にて Verify RDR Virtual Disk を実行頂くか、または、Virtual RDR Virtual Disk の実行間隔(LunVerifyInterval: デフォルト 12 時間)を拡張の上、ご使用されることをご推奨させていただきます。

【 Verify RDR Virtual Disk 機能の停止手順 】

ftSSS リリース 3.0 の場合

レジストリ

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥sradiisk¥parameters¥LunVerifyTimePeriod の DWORD 値の編集で「値のデータ」を 0 へ変更します。

ftSSS リリース 3.1 以降の場合

ftSMC から、ftServer Drivers SCSI Port Duplex Driver - Sradisk_Driver のプロパティにて LunVerifyInterval を 0 へ変更します。

【 手動で Verify RDR Virtual Disk の実行手順 】

ftSMC から、ftServer I/O Enclosure Logical Disk Information RDR Virtual Disk 1 (対象ディスク)のプロパティから Verify RDR Virtual Disk を実行します。

【 Verify RDR Virtual Disk の実行間隔の変更手順 】

ftSMC から、ftServer Drivers SCSI Port Duplex Driver - Sradisk_Driver のプロパティにて

LunVerifyInterval を任意の値へ変更します。設定値は1分単位で設定可能で最大 4294967295 (FFFFFFFFx)です。

次の Verify RDR Virtual Disk の実行は、設定変更時刻から LunVerifyInterval で設定した任意の時間経過後となります。

また、Windows タスクマネージャにて初回の Verify RDR Virtual Disk 実行を考慮される場合、以下手順にてご対処をお願い致します。

1. ftSMCを起動し、デフォルトの実行間隔を0(自動実行せず)に設定します。

a. ftSMC(ftServer Management Console)を起動

b. "Console Root¥ftServer (Local)¥ftServer Drivers¥SCSI Port Duplex Driver - Sradisk_Driver" ノードを開く

c. 右クリックして、[Properties]を選択

d. プロパティ画面で、左から3番目の[Properties]タブを選択

e. "LunVerifyInterval"を0にし、[適用]

ftSS3.0の場合のみfも追加で実行

f. レジストリエディタで、"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet ¥Services¥sradisk¥parameters¥LunVerifyTimePeriod"の値を0に変更

2. FTPサイトからスクリプトをダウンロードします。

a. ブラウザでftp://ftp.stratus.com/cac/ftServer/ftstools.htmを開く

b. sraverifyluns.zipをダウンロード

3. スクリプトをftServerにコピーします。

ダウンロードしたsraverifyluns.zipを解凍し、解凍後のファイル sraverifyluns.vbeをftServerのc:¥にコピー

4. 以下のbatファイルをc:¥に作成します。

ファイル名: sraverifyluns.bat

```
cscript //nologo c:¥sraverifyluns.vbe
```

5. Windowsのタスクスケジューラでsraverifyluns.batの実行時間を設定します。

a. [スタート] {プログラム} {アクセサリ} {システムツール} {タスク}

b. ウィザードに沿って、batファイルを指定し、実施時刻を入力

その他ご質問、ご不明な点、または万が一問題が発生した場合は、保守契約窓口にご連絡下さい。

以上